

むくのきだより 11月号



令和5年10月31日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

実りの秋に ～共感し、協同し、やり遂げる経験を～

園長 中村 美奈子

秋が深まり、実りの秋を迎えました。みんなで育てていたサツマイモを掘ると、いろいろな形・大きさのサツマイモがたくさん出てきて、子供たちは大喜び。どうやって食べようかなと、楽しみにしています。

10月14日の運動会には、多くの保護者の皆様・地域の皆様にご来場いただきました。子供たちを温かく応援をしてくださったり、競技や体操に参加してくださったり、ありがとうございました。赤羽小学校の体育館で行う初めての運動会でしたが、皆様のご協力のおかげでスムーズに進行することができました。感謝申し上げます。

さて、幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中の「協同性」について、解説には、「幼児は、友達と関わる中で、様々な出来事を通して、嬉しい、悔しい、悲しい、楽しいなどの多様な感情体験を味わい、友達との関わりを深めていく。その中で互いの思いや考えなどを共有し、次第に共通の目的をもつようになる。5歳児の後半には、その目的の実現に向けて、考えたことを相手に分かるように伝えながら、工夫したり、協力したりし、充実感をもって幼児同士でやり遂げるようになる。」とあります。運動会などの大きな行事をつくっていく取り組みの中には、このような子供の姿がたくさん見られます。

年少さくら組の子供たちは、小学生の運動会練習を見せてもらったり、年長ゆり組の子供たちに「運動会があること」や「どんなことをするのか」を教えてもらったりして、「楽しそう!」「やってみたい!」という思いをもちました。そして、玉入れをして、勝ったり・負けたりする経験や、大好きなヒーローになってダンスを披露する経験をしました。教師は、勝った時の嬉しい気持ちや負けた時の悔しい気持ちに共感しつつ、勝ち負けがあるゲームの楽しさを感じさせるような言葉掛けや雰囲気づくりをしました。また、子供の思いを引き出してヒーローの名前や衣装を決めたり、子供同士が互いに見合っってポーズを考える場面をつくったりしました。運動会が近づくにつれ、友達と一緒に取り組む楽しさや、おうちの人などたくさんの人に見てもらいたいという気持ちが膨らんでいくようでした。年長ゆり組の子供たちは、昨年のゆり組の子供たちの姿や自分の経験を思い出し、運動会のイメージをもって取り組んでいました。係の仕事やリレーの走順も話し合い、自分たちで決めました。ダンスの動きを考えたり、自分たちのダンスの動画を見て、もっと上手に踊るにはどうすればいいのか話し合ったりもしていました。教師は、一人一人の子供たちが自分の思いを伝えられるように話し合いを見守ったり、必要な声掛けをしたりしていました。

運動会が近づき、小学校5・6年生が幼稚園の練習を見に来てくれました。小学生は、幼稚園の子供たちが頑張っている姿に感心し、たくさん良かったところを教えてくださいました。そして、迎えた本番は、ご家族や地域の皆さんから、たくさんの応援・拍手をもらい、褒められ、運動会をやり遂げた嬉しさでいっぱいなことが子供たちの表情からあふれていました。これからも、日々の遊びの中で、様々な行事の中で、共感し、協同し、やり遂げる経験を積み重ねられるよう工夫していきます。

